

申告書は、国税庁ホームページで作成できます!

確定申告

検索

○年金所得者に係る申告不要制度

公的年金等の収入金額が400万円以下であり、かつ、その公的年金等の全部が源泉徴収の対象となる場合において、公的年金等に係る雑所得以外の所得金額が20万円以下であるときは、所得税及び復興特別所得税(以下「所得税等」といいます。)の確定申告は必要ありません。(注)1 この制度により確定申告の必要がない場合であっても、所得税等の還付を受けるためには、確定申告をする必要があります。2 所得税等の確定申告の必要がない場合であっても、住民税の申告が必要な場合があります。住民税に関する詳しいことは、お住まいの市区町村の窓口にお尋ねください。 ※ この記載例は、年金所得者に係る確定申告不要制度の対象となる方が還付申告をする場合を示しています。

申告書第一表の住所・氏名等の欄

○「生年月日」には元号に対応する次の数字、年月日(各数字2桁)の順に記入します。

【 明治：1 大正：2 昭和：3 平成：4 令和：5 】

公的年金等に係る所得の計算 (公的年金等に係る雑所得以外の合計所得金額が1,000万円以下の場合)

公的年金等の収入金額(税込)	支払金額の合計	円	A
----------------	---------	---	---

●昭和31年1月2日以後に生まれた方(65歳未満の方)の計算

Aの金額	公的年金等の雑所得の金額
~600,000円	0円
~1,299,999円	A - 600,000円
~4,099,999円	A × 0.75 - 275,000円
~7,699,999円	A × 0.85 - 685,000円
~9,999,999円	A × 0.95 - 1,455,000円
10,000,000円~	A - 1,955,000円

●昭和31年1月1日以前に生まれた方(65歳以上の方)の計算

Aの金額	公的年金等の雑所得の金額
~1,100,000円	0円
~3,299,999円	A - 1,100,000円
~4,099,999円	A × 0.75 - 275,000円
~7,699,999円	A × 0.85 - 685,000円
~9,999,999円	A × 0.95 - 1,455,000円
10,000,000円~	A - 1,955,000円

※ 1円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てます。

《例》昭和28年生まれで公的年金等の収入金額の合計額が2,760,100円の場合
2,760,100円 - 1,100,000円 = 1,660,100円

2ページを参照してください。

医療費控除

「医療費控除に関する明細書(※)」の添付が必要です。医療費の領収書の添付又は提示は必要ありません。

※国税庁ホームページからダウンロードできます。なお、税務署にも用意しています。

支払った医療費(合計)	円	A	
保険金などで補てんされる金額	円	B	
差引金額(A - B)	(マイナスのときは0円)	円	C
申告書第一表⑧欄の金額	円	D	
D × 0.05	(赤字のときは0円)	円	E
Eと10万円のいずれか少ない方の金額	円	F	
医療費控除額(C - E)	(最高200万円、赤字のときは0円)	円	

申告書の記載例 ~収入が公的年金等のみの場合~

③④⑤については2ページを参照してください。

令和2年分 公的年金等の源泉徴収票

支払を受ける者 〇〇市△△町×-××-×

氏名 国税 太郎

生年月日 昭和28年9月1日

所得税課税区分 1 980 000 42 882

源泉徴収税額 780,100円

社会保険料の額 284,055円

令和2年分 公的年金等の源泉徴収票

支払を受ける者 〇〇市△△町×-××-×

氏名 国税 太郎

生年月日 28 9 1

所得税課税区分 1 980 000 42 882

源泉徴収税額 780,100円

社会保険料の額 284,055円

確定申告書には、マイナンバー(個人番号)を記入する必要があります。

令和3年2月16日 令和02年分の所得税及び復興特別所得税の確定申告書A

住所 〇〇市△△町×-××-×

氏名 国税 太郎

生年月日 3 28 09 01

個人番号 ××××××××××××××××

フリガナ コクセ イ タロウ

世帯主の氏名 国税太郎

世帯主との続柄 本人

令和3年1月1日の住所 同上

整理番号 FA2000

収入金額等	雑所得金額等	所得金額等	所得から差し引かれる金額
給与 ①	公的年金等 ① 2760100	給与 ①	社会保険料控除 ⑨ 284055
雑業務 ②	その他 ② 1660100	雑業務 ②	小規模企業共済等掛金控除 ⑩
配当 ③	②から④までの計 ⑤ 1660100	配当 ③	生命保険料控除 ⑪ 35000
一時 ④		一時 ④	地震保険料控除 ⑫ 20000
合計 ⑧ 1660100		合計 ⑧ ①+②+③+④ ⑦ 1660100	寡婦、ひとり親控除 ⑬ 0000
			労働学生、障害者控除 ⑭ 0000
			配偶者(特別)控除 ⑮ 380000
			扶養控除 ⑯ 0000
			基礎控除 ⑰ 480000
			⑨から⑳までの計 ⑳ 1199055
			雑損控除 ㉑
			医療費控除 ㉒ 41995
			寄附金控除 ㉓
			合計 ㉔ 1241050

課税される所得金額(②⑥欄)に対する税額の計算

課税される所得金額(②⑥欄)	課税される所得金額に対する税額
1,000円~ 1,949,000円	②⑥欄の金額 × 0.05
1,950,000円~ 3,299,000円	②⑥欄の金額 × 0.1 - 97,500円
3,300,000円~ 6,949,000円	②⑥欄の金額 × 0.2 - 427,500円
6,950,000円~ 8,999,000円	②⑥欄の金額 × 0.23 - 636,000円
9,000,000円~ 17,999,000円	②⑥欄の金額 × 0.33 - 1,536,000円
18,000,000円~ 39,999,000円	②⑥欄の金額 × 0.4 - 2,796,000円
40,000,000円~	②⑥欄の金額 × 0.45 - 4,796,000円

《例》②⑥欄の金額が419,000円の場合
419,000円 × 0.05 = 20,950円

復興特別所得税額の計算

基準所得税額(③⑧欄の金額)	円	A
復興特別所得税額(A × 0.021)	円	

《例》③⑧欄の金額が20,950円の場合
20,950円 × 0.021 = 439円

※ 1円未満の端数があるときはその端数を切り捨てます。

申告書第二表「④源泉徴収税額の合計額」欄から転記します。

税金を納めることとなる方は、次のいずれかの方法で税金を納付します。

- 振替納税を利用する方法 (振替納税のお申込みが必要です。)

令和2年分の所得税等の確定申告書の振替日は、令和3年4月19日(月)です。確実に振替納付できるように、預貯金残高をご確認ください。なお、振替納税は申告期限までに申告書を提出された場合に利用できます。また、振替納税の場合には、領収証書は発行されませんのでご注意ください。
- 現金で納付する方法

令和2年分の所得税等の確定申告書の納期限は、令和3年3月15日(月)です。現金に納付書を添えて、金融機関(日本銀行歳入代理店)又は住所地等の所轄税務署の納税窓口で納付してください。
- e-Taxで納付する方法

自宅等からインターネットを利用して納付できます。詳しくは、e-Taxホームページの「電子納税」(https://www.e-tax.nta.go.jp/nozei.html)をご覧ください。
- クレジットカードで納付する方法

インターネットを利用して「国税クレジットカードお支払サイト」から納付できます。詳しくは、国税庁ホームページの「クレジットカード納付の手続」(https://www.nta.go.jp/taxes/tetsuzuki/shinsei/nofu-shomei/nofu/credit_nofu/index.htm)をご覧ください。
- QRコードによりコンビニエンスストアで納付する方法

ご自宅などで、国税庁ホームページで提供する作成システム等から納付に必要な情報をQRコードとして作成(印刷)し、コンビニエンスストアで納付できます。詳しくは、国税庁ホームページの「国税の納付手続」にある「コンビニ納付(QRコード)」(https://www.nta.go.jp/taxes/nozei/nofu/conveni_qr_nofu/index.htm)をご覧ください。 ※ 納付できる金額は30万円以下となります。 (注)「QRコード」は、株式会社デンソーウェアの登録商標です。 ※ 申告書の提出後に、納付書の送付や納税通知等による納税のお知らせはありません。

配偶者特別控除(2ページを参照してください。)を受ける場合に、配偶者の合計所得金額を記入します。

申告書第二表「④源泉徴収税額の合計額」欄から転記します。

税金の還付を受けることとなる方は、振込みを希望する預貯金口座を記入します。

- 銀行等の場合は、銀行等の名称、預金種類(該当する預金種類(総合口座の場合には「普通」)に○印を付けます。)及び口座番号を記入します。
- ゆうちょ銀行の場合は、貯金総合通帳の記号番号のみを記入します。他の金融機関との振込用の「店名(店番)」、「口座番号」は記入しないでください。また、記号部分と番号部分の間に1桁の数字(通帳再発行時に表示される「-2」などの枝番)がある場合は、その数字の記入は不要です。
 - ※ 預貯金口座の口座名義は、申告者ご本人の氏名のみのお口座をご利用ください。預貯金口座の名義に、店名、事務所名などの名称(屋号)が含まれる場合や、名義が旧姓のままである場合には、振込みできないことがあります。
 - ※ 納税管理人の指定をしている場合は、その納税管理人の名義の預貯金口座となります。
 - ※ インターネット専用銀行は、特定の銀行を除いて還付金の振込みはできませんので、振込みの可否については取引している銀行にお問い合わせください。
 - ※ ゆうちょ銀行の各店舗又は郵便局窓口での受取をご希望の場合には、受取を希望する郵便局名等を記入してください。

社会保険料控除

あなたや生計を一にする配偶者その他の親族が負担することになっている次のような社会保険料で、**あなたが支払ったり、あなたの年金から差し引かれたりした保険料を申告書第二表「⑨社会保険料控除」欄**に記入します。また、その合計額を**申告書第一表⑨欄**に転記します。

健康保険料、国民健康保険料(税)、後期高齢者医療保険料、介護保険料、労働保険料
国民年金保険料、国民年金基金の掛金 など

※ 生計を一にする配偶者その他の親族が受け取る年金から引き落とし(特別徴収)されている国民健康保険料(税)や後期高齢者医療保険料、介護保険料は、あなたの控除の対象にはなりません。

なお、国民健康保険料(税)や後期高齢者医療保険料で、あなたが口座振替によりその保険料を支払った場合には、あなたの控除の対象となります。

寡婦・ひとり親控除 (あなたが寡婦かひとり親である場合の控除)

該当する控除額を**申告書第一表⑬～⑭欄**に記入します。また**申告書第二表「本人に関する事項(⑬～⑯)」欄**の該当する箇所を「○」及びチェック(✓)します。ひとり親控除の適用を受ける場合は「区分」の□に「1」を記入します。

区分 (要件等)	控除額
ひとり親 現に婚姻していない方又は配偶者が生死不明などの方で、次の①～③のいずれにも当てはまる方 ① 合計所得金額が500万円以下であること ② 総所得金額等が48万円以下の生計を一にする子がいること ③ 事実上婚姻関係と同様の事情にあると認められる者がいないこと	35万円
寡婦 上記の「ひとり親」に当たらない方で、次の①～③のいずれにも当てはまる方 ① 合計所得金額が500万円以下であること ② 以下のいずれかに該当すること ◆ 夫と死別した後婚姻をしていない方又は夫が生死不明などの方 ◆ 夫と離別した後婚姻をしていない方で、扶養親族を有する方 ③ 事実上婚姻関係と同様の事情にあると認められる者がいないこと	27万円

※ 生計を一にする子のうち、他の納税者の同一生計配偶者や扶養親族とされている方は除きます。

配偶者(特別)控除

あなたの合計所得金額(申告書第一表⑧欄)と配偶者の合計所得金額に応じた控除額は次のとおりです。

該当する控除額を**申告書第一表⑰～⑱欄**に記入し(配偶者特別控除を受ける場合は「区分1」の□に「1」をあわせて記入)、また、**申告書第二表「配偶者や親族に関する事項(⑯～⑲)」欄**の該当箇所を記入します。

「配偶者(特別)控除額」

	あなたの合計所得金額 (第一表⑧)			控除の種類	
	900万円以下	900万円超 950万円以下	950万円超 1,000万円以下		
配偶者の合計所得金額	48万円以下 (控除対象配偶者)	38万円	26万円	13万円	配偶者控除
	老人控除対象配偶者	48万円	32万円	16万円	
配偶者の合計所得金額	48万円超 95万円以下	38万円	26万円	13万円	配偶者特別控除
	95万円超 100万円以下	36万円	24万円	12万円	
	100万円超 105万円以下	31万円	21万円	11万円	
	105万円超 110万円以下	26万円	18万円	9万円	
	110万円超 115万円以下	21万円	14万円	7万円	
	115万円超 120万円以下	16万円	11万円	6万円	
	120万円超 125万円以下	11万円	8万円	4万円	
125万円超 130万円以下	6万円	4万円	2万円		
130万円超 133万円以下	3万円	2万円	1万円		
133万円超	0円	0円	0円		

○同一生計配偶者
生計を一にする配偶者(青色事業専従者として給与の支払を受ける者又は白色事業専従者を除く。)で、合計所得金額が48万円以下である方

○控除対象配偶者
同一生計配偶者のうち、あなたの合計所得金額が1,000万円以下の場合の配偶者

○老人控除対象配偶者
控除対象配偶者のうち、昭和26年1月1日以前に生まれた方(年齢が70歳以上の方)

※ 夫婦がお互いに配偶者特別控除を適用することはできません。

あなたに同一生計配偶者がいる場合で、あなたの合計所得金額が1,000万円を超えるときは、その配偶者の氏名・マイナンバー(個人番号)・生年月日・同一に○を記入します。

扶養控除の適用がない16歳未満の扶養親族がいる場合に、その扶養親族の氏名・マイナンバー(個人番号)・続柄・生年月日・16に○を記入します。

扶養控除

控除対象扶養親族の区分に応じた控除額は、次のとおりです。**申告書第二表「配偶者や親族に関する事項(⑯～⑲)」欄**の該当する箇所に記入します。また、控除額の合計額を**申告書第一表⑱欄**に記入します。

区分	控除額	
一般の控除対象扶養親族 ※1	38万円	
特定扶養親族 ※2	63万円	
老人扶養親族 ※3	同居老親等 ※4	58万円
	同居老親等以外	48万円

- ※1 扶養親族のうち、平成17年1月1日以前に生まれた方(年齢が16歳以上の方)
- ※2 控除対象扶養親族のうち、平成10年1月2日から平成14年1月1日までの間に生まれた方(年齢が19歳以上23歳未満の方)
- ※3 控除対象扶養親族のうち、昭和26年1月1日以前に生まれた方(年齢が70歳以上の方)
- ※4 老人扶養親族のうち、あなたや配偶者の直系尊属で、あなたや配偶者との同居を常としている方(老人ホームなどへ入所している場合は、同居を常としているとはいえません。)

「令和〇〇年分」には、「2」と記入します。

令和 〇2 年分の 所得税及び復興特別所得税の確定申告書 A

住所: 〇〇市△△町×-××-×
氏名: 国税 太郎

源泉徴収票の内容を記入します(1ページの源泉徴収票の①から④に対応しています。)

一時所得に関する事項(7) ③+④
申告書第一表④欄及び⑥欄に転記します。

本人に関する事項(13~16)
配偶者: 国税春子 (個人番号: XXXXX-XXXX-XXXX)

配偶者や親族に関する事項(16~19)
扶養親族: 〇〇△△××-××-×

住民税に関する事項
配偶者: 〇〇△△××-××-×

障害者控除(あなたや、同一生計配偶者又は扶養親族が障害者や特別障害者である場合の控除)

該当する控除額を**申告書第一表⑲～⑳欄**に記入します。

区分	控除額	
	あなたが障害者の場合	同一生計配偶者又は扶養親族が障害者の場合(1人につき)
障害者 ※1	27万円	
特別障害者 ※2	40万円	
同居特別障害者 ※3		75万円

- ※1 令和2年12月31日の現況において、次のいずれかに該当する、精神や身体に障害のある方
 - ・身体障害者手帳や戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の発行を受けている方
 - ・精神保健指定医などにより知的障害者と判定された方
 - ・65歳以上の方で障害の程度が障害者に準ずるものとして市町村長等の認定を受けている方 など
- ※2 障害者のうち、次の特に重度の障害のある方
 - ・身体障害者手帳に身体上の障害の程度が一級又は二級と記載されている方
 - ・精神障害者保健福祉手帳に障害等級が一級と記載されている方
 - ・重度の知的障害者と判定された方
 - ・いつも病床にいて、複雑な介護を受けなければならない方 など
- ※3 特別障害者である同一生計配偶者や扶養親族で、あなたや配偶者、生計を一にする親族のどなたかとの同居を常としている方(老人ホームなどへ入所している場合は、同居を常としているとはいえません。)

生命保険料控除 (新(旧)生命保険料、新(旧)個人年金保険料、介護医療保険料の別に計算します。)

※ 控除額の計算において算出した金額に1円未満の端数があるときは、その端数を切り上げて差し支えありません。

●平成23年12月31日以前に締結した保険契約等に基づく保険料

支払った保険料	旧生命保険料 (合計)		旧個人年金保険料 (合計)	
	円	A	円	B
～25,000円	△の金額	円	△の金額	円
25,001円～50,000円	△×0.5+12,500円	円	△×0.5+12,500円	円
50,001円～	△×0.25+25,000円(最高5万円)	円	△×0.25+25,000円(最高5万円)	円

●平成24年1月1日以後に締結した保険契約等に基づく保険料

支払った保険料	新生命保険料 (合計)		新個人年金保険料 (合計)		介護医療保険料 (合計)	
	円	E	円	F	円	G
～20,000円	△の金額	円	△の金額	円	△の金額	円
20,001円～40,000円	△×0.5+10,000円	円	△×0.5+10,000円	円	△×0.5+10,000円	円
40,001円～	△×0.25+20,000円(最高4万円)	円	△×0.25+20,000円(最高4万円)	円	△×0.25+20,000円(最高4万円)	円

▶生命保険料控除額

生命保険料控除額 (K)+L+M	円	N
------------------	---	---

※ △又は△の計算において、新生命保険料及び旧生命保険料の両方又は新個人年金保険料及び旧個人年金保険料の両方を支払っている場合で、その両方について生命保険料控除の適用を受けるときは、それぞれ4万円が適用限度額となりますが、例えば△の計算において、新生命保険料10万円、旧生命保険料15万円を支払った場合のように、旧生命保険料のみについて生命保険料控除の適用を受ける場合の控除額(5万円)が新旧両方の生命保険料について生命保険料控除の適用を受ける場合の控除額(4万円)よりも有利になる場合には、旧生命保険料のみについて生命保険料控除の適用を受けることにより、5万円を限度に生命保険料控除を受けることができます。新個人年金保険料と旧個人年金保険料の場合も同様です。なお、この場合であっても、△+△+△の金額の合計額は12万円が限度となります。

地震保険料控除(保険契約の別に記入します。)

- ※1 地震保険料及び旧長期損害保険料の両方の支払が証明された保険契約が2以上ある場合は、税務署にお尋ねください。
- ※2 保険契約の区分は、損害保険会社等が発行する証明書に表示されています。
- ※3 控除額の計算において算出した金額に1円未満の端数があるときは、その端数を切り上げて差し支えありません。

保険契約の区分	保険料の金額	
	地震保険料のみの場合 (合計)	円
地震保険料と旧長期損害保険料の両方がある場合	地震保険料	円
	旧長期損害保険料	円
旧長期損害保険料のみの場合 (合計)		円
A + B		円
C + D		円
△の金額	～10,000円	△の金額
	10,001円～	△×0.5+5,000円 (最高15,000円)
E + G		円
△の金額	～10,000円	△の金額
	10,001円～	△×0.5+5,000円 (最高15,000円)
A + I		円

地震保険料控除額 (HとIのいずれか多い方の金額) 円

- △の金額を**申告書第一表⑳欄**に転記します。
- **申告書第二表「⑳地震保険料控除」欄**に次の金額を転記します。
 - ・「**地震保険料**」欄には、△に△の金額を記入した場合は△の金額を、△に△の金額を記入した場合は△の金額を転記します。
 - ・「**旧長期損害保険料**」欄には、△に△の金額を記入した場合は△の金額を、△に△の金額を記入した場合は△の金額を転記します。